

日本のグリーン&クリーン技術について

(2015年3月23日)

駐クロアチア日本国特命全権大使 井出敬二

本日はズマイロビッチ環境大臣その他皆様にご出席いただき、誠に光栄です。日本のグリーンでクリーンな技術を紹介したいと思います。

昨年12月、日本の3人の科学者が青色LEDの開発の功績でノーベル物理学賞を受賞しました。このLEDは、地球温暖化問題の取り組みに画期的な貢献をしています。21世紀において日本は米国に次いでノーベル賞（自然科学分野）で2番目に多い受賞者を出しています。日本人は優れた技術をもって、人類共通の課題に取り組んでいます。

世界全体のCO2排出量は約317億トン（2012年）ですが、道路（自動車）の排出量は約17%を占めています。世界における自動車生産台数に占める日本企業生産自動車のシェアは約31%と、国別では世界最大です。従って、日本の自動車メーカーは率先してこの問題に取り組む使命があると言えます。

日本政府もハイブリッド自動車や次世代自動車を増やす取り組みをしています。次世代自動車は、クリーン・エネルギー自動車（CEV）とも言いますが、具体的には、①電気自動車（EV, Electric Vehicle）、②プラグ・イン・ハイブリッド（PHV, Plug-in Hybrid Vehicle）、③クリーン・ディーゼル自動車（CDV, Clean Diesel Vehicle）、④燃料電池自動車（FCV, Fuel Cell Vehicle）です。日本国内では、2015年1月末時点でのCEVの累計販売台数は11万台を越えており、米国に次いで世界第2位の保有台数となっています。

日本政府の関連部局は、次世代自動車の新車販売に占める割合を2020年に20～50%、2030年には50～70%とする目標を立てています。

日本では急速充電器（15～30分程度で充電）は既に6千カ所に配置されています。

ビデオでご覧頂いた通り、米国、エストニアなどでEVが普及しています。香港警察も日本製EVを導入しました。テスラ・モーターズ製EVにはパナソニック製電池が使われています。報道によればアップルも2020年に電気自動車の生産を目指しているということです。このように次世代自動車の普及が急速に進んでおり、価格も下がることが期待されます。

クロアチアでもリーマツ社、ドッキング社がEVを生産しています。またザグレブ市内には矢崎総業の研究開発センターがあり、自動車部品を開発しています。日本とクロアチアの協力が様々な形で進むことを期待しています。

ご清聴ありがとうございました。

(了)